

在宅授業に対応する表現教育の可能性 —造形(表現)指導法Iでの取り組み—

新潟青陵大学短期大学部幼児教育学科 福岡龍太

1. はじめに

2020年度前期、国内の大学生は、自宅でパソコンを使った授業を受講しなければならなくなった。筆者の勤務校¹においては、5月の大型連休後よりすべての授業が遠隔化され、学生にパソコンが貸与された。すると開始後まもなく、毎日続く遠隔授業により健康状態が悪化したと訴える学生が多発する。ただちに学校側は緊急策として、画面を見続けられない配慮を施した授業構成を教員に求めつつ、授業時間内で課題が完結するように通達を出した。そこで筆者は担当授業内で学生にアンケート調査を実施し、学生の現状を探った。そして授業実践方法を再考しながら、教育環境を包括した生活環境の改善を試みる。本研究ノートでは、その経緯と実践内容を明らかにし、コロナ禍における表現教育の進め方を保育士養成校の目線で示したい。

2. 問題提起

筆者の勤務校では2020年5月7日木曜日より、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、遠隔授業が始まった。筆者が担当する表現指導法Iは、保育計画を立てる上で重視すべき表現についての理解を促すため、学生が自ら制作をしながら客観的に考察を行う授業形態をとっている。今まで対面授業でしか行ったことがないこの授業を、余儀なく遠隔授業にすることになっても、カメラを通じて同様の授業はできると筆者は判断した。そのため授業内容を大幅に変更することなく授業を開始した。すると1カ月もたたないうちに学生から、1週間に出る課題が多すぎるとの訴えがちらほら出てきた。そして筆者の授業を含め、すべての授業で毎時間課題が出ていることがわかった。そして家族と同居、一人暮らし、寮生活を問わず、授業内で課題を終えることができず、休日に取り組んでも終わら

ず、どんどん溜まっていく学生が急激に増えた。そこで筆者は自身の授業内での課題を停止し、学生の現状を知るために以下のアンケートを実施した。

(1) 日時:5月21日(木)、25日(月)、27日(水)

(2) 対象者:幼児教育学科1年生 130名

(3) 方法:Zoomによる表現(造形)指導法Iの遠隔授業内で、筆者が口頭質問をして学生がチャット機能を使い返答する

(4) 質問内容

- ①授業を受ける際にどのような不具合があるか
- ②現況に対する心の声(本音)を聴かせてほしい

(5) 回答

質問①

- ・課題が多くて授業内に終わらない。122名
- ・画面に表示された活字ばかりを見ているうちに気持ちが悪くなる。93名
- ・視力が明らかに低下した。21名
- ・心療内科に通うようになった。4名

質問②

- ・外で遊びたい。外食をしたい。119名
- ・学校に行きたい。72名
- ・保育士を諦めたい。夢や希望がなくなった。6名
- ・1週間同じ服を着ている自分が嫌だ。5名
- ・カーテンを全く開けていない。5名
- ・ゴミ出しの時しか外に出ていない。5名

アンケートの結果、多くの学生がウイルス感染を防ぐために室内から出ないようにしていることがわかった。その行動は、授業への出席率に反映されて良いことなのかもしれないが、視力の低下や精神的疲弊を引き起こしていることは問題である。また、生活がだらしくなり、将来の夢や希望が消えてしまった学生がわずかでもいる現状は、もはや異常であり、ただちに改善するべきである。

そこで筆者は室内に閉じこもってしまわない学習環境を提示しつつ、表現指導法の授業の特性を生かしながら学習到達目標を達成するカリキュラムを再考し、実践することとした。ここで示す学習到達目標とは、保育士・幼稚園教諭資格を取得して保育士になるという目的に向かうための“気力を取り戻す”ことである。

3. 方法

保育計画を立てる保育士には、活動の様々な状況変化の可能性を考慮する力及び活動に関わる人を具体的に観察する力²が求められる。そこで学生には①運動不足解消、②観察力を育むこと、③コミュニケーション能力の向上という3つの実践目標を伝え、5月28日(木)から2週にわたり表現指導法Iの実践課題として以下の設定をした。

(1) 実践条件

- ①徒歩、もしくは自転車15分散歩をする。
 - ②15分経過したら安全な場所で立ち止まり、目に見える周囲の状況のみを詳細に記録する。
 - ③感想等は記載しないこと。
 - ④メモの方法は文章に限らない。
 - ⑤昼間に実行すること。
 - ⑥天候を考慮しながら1週間に2日以上、散歩をしようと思った時だけ実行すること。
 - ⑦翌週の授業で、情景を全く知らないクラスメイトにメモを精査してチャット機能を使い伝える。
- 以上の条件で行う課題を筆者は「15分後の・・・」と名付けた。

(2) 評価方法

- ・後日回収する観察メモから観察意欲を見る。配点55%
- ・チャット入力を観察眼と文章力に分けて評価する。配点20%ずつ
- ・2日以上取り組みを評価する。配点5%

4. 結果

(1) 実行状況

- ・学生は課題として取り組む必要があるため、実行率は100%であった。
- ・実行回数は週に1回が17名、2回が102名、3回以上が11名であった。

- ・実行した時間帯は夕方がほとんどで、6名が早朝に行った。
- ・移動手段は自転車等乗り物を使用した散歩はなく、全員が徒歩もしくはジョギングで行った。12名は犬の散歩と併用していた。
- ・使用した文房具はノートが65名、簡易メモ帳が29名、コピー用紙等が37名。

(2) 観察眼

観察内容は建物の名称や大きさがほとんどで、屋根や扉の色まで言及している学生は少数であった。動くもの、例えば走り去る車や鉄道などに興味を持った学生は半数近く存在したが、人の流れ等を観察した学生はほとんどいなかった。雲の様子や樹木の茂り具合まで着目した学生は16名で、そのうち3名は観察時のにおいや温度、湿度までも記載してあった。

(3) 要約能力・文章力

1週目の観察が終了した6月4日(木)以降の授業内で、チャット入力をして他者に情景を伝えるという課題は中止とした。中止した理由は以下の2点である。

①この課題を行った時期は、未だパソコン入力に慣れていない学生が過半数以上と多く、授業時間内にメモ内容を要約して入力を完了するには時間がかかりすぎると筆者が判断したため。

②要約したメモをチャットに入力するという行為が、長時間にわたりパソコンの画面を見続けることによる視力低下を招く恐れがあることが懸念されたため。

この判断により「後日回収する観察メモから観察意欲を見る」の配点55%を95%に引き上げ、「観察眼」も含めた総合評価とすることにした。

5. 考察と結論

(1) 実行意欲について

今回の授業カリキュラムの見直しは、感染防止により学生が遠隔授業となり外出しなくなったことが発端である。外出しない生活は運動不足を引き起こし、パソコン画面を見続ける毎日が続いたため、視力の低下や、わずかではあるが精神不安による将来への見通しが喪失する事態を招いてしまった。そこで筆者の担当する表現指導法Iでは、運動不足を解消するために散歩を15分取り入れた。そして観

察眼を養うために15分経過したところの情景を観察するように学生へ促した。

保育士免許等を取得するにあたり、表現指導法Iは必須であるため、前向きに授業へ参加する学生は多い。しかし心身ともに短期間で疲弊した学生が、課題であるからという大義名分だけで本実践に進んで取り組んだとは考えにくい。なぜならば、散歩したいと思った時にだけ行動に移してほしい、気分が乗らなければやらなくてもいいと筆者は極力活動を強要しない言葉がけをしていたからだ。また、本実践以外にも成績評価が行える活動があったため、単位修得に影響しないことを学生は理解していたことも理由として挙げられる。では、学生の実行意欲の原動力は何だったのだろうか。

アンケートによりわかったことは、ほとんどの学生が「感染防止のため不要不急の外出は控える」という政府からの呼びかけを、「絶対に外出してはいけない」と認識していたことだ。それによりカーテンを開けない部屋での生活を5名の学生が送っていたことがわかった。しかし驚くべきことは、後日の聞き取り調査でカーテンすら開けない生活をしていた学生は5名どころではなく、実際には71名、全体の半数以上がこの異常な現状に気付いていなかったということである。極端な認識を招いた有事が、自覚できないほどの生活環境の悪化を学生に与えてしまったのだ。

自粛生活が3月下旬から始まり2カ月ほど経過した5月中旬、そろそろ我慢の限界を感じてきたであ

ろう学生に筆者は本実践を提示した。このタイミングならば、屋外に出るきっかけを切望している学生は多いと推測したからである。実践を開始してみると、15分の散歩と屋外での観察くらいなら感染リスクはかなり低いだろうし、なんだか楽そうだからやってみたくなったという理由で実行率は日に日に高まっていった。感染防止を考慮した外出を誘う軽い言葉がけが、実行意欲の原動力になったと言える。

ほかにも全体の10%ではあるが、犬の散歩のついでに本実践を実行したという意見があった。「犬の散歩は毎日やるのだからそのついでにできれば苦にならない」「犬の散歩は滅多に人に会わないから感染するとは思わない」などの理由は、実行率を高くするだけでなく、実行回数増加にもつながった。また、「犬の散歩は気分転換のために行く」という意見もあり、動物を飼っていない大多数の学生の「気分転換のために散歩をしたいと思った」という意見と一致している。主体的な気分転換とペットの存在は、息詰まった生活環境の改善をもたらし、これも本実践の実行意欲の原動力になったと言える。

(2) 観察眼について

今回の緊急課題を実施してわかったことは、実家から通う学生も、そうでない学生も、自宅の周辺をあまりよく知らないということだ。15分の散歩であれば、おおよそ1キロ強の移動が可能となる。自宅を中心として半径1キロ圏内となると、かなりの面積が観察対象となる。「なんとなく知っていた路地も、おぼろげに認識している建物も、よく観察する

と新たな発見につながった」という感想は、観察眼を駆使した証であろう。また、ほぼ田畑しかない情景の中では、足元の小さな草花や昆虫などに注目する観察眼も多く見られた。そして、9名の学生は「文章だけでは伝わらない」という理由でその情景をスケッチしたり写真を撮ったりしてきた。「メモの方法は文章に限らない」というルールを拡大解釈したのだろう。しかしスケッチや写真からは、仕方なしに行ったという背景は読み取れず、どちらかと言うと率先してこの行動を起こしたと筆者は推測する。描きたいという自発的な活動意欲は最も尊重すべきであり、そこに観察眼が加われば表現の可能性はさらに広がっていく。指導者、特に保育者としての資質向上が期待できるのではないか。

(3) 要約能力と文章力について

今回の課題は当初、情景のメモを翌週の授業内で要約し、チャット機能を使ってクラスメイトに公表する予定であった。しかし、キーボード入力にまだ慣れていない学生が多数存在していることがわかり、急遽メモだけを後日提出し、それを筆者が採点することにした。そのため、学生の要約能力を見ることはできなかった。また、メモに記された記述方法はおおよそ箇条書きとなっていたことで、総合的な文章力も見ることができなかった。しかし、事実のみ端的に書かれているメモは、情景描写が浮き彫りとなり大変読みやすく、筆者はその情景を容易に思い浮かべることができた。4名の学生からは、何度も感想を書きそうになったが、我慢をしたことでメモをとることの意味がなんとなく理解できた、という趣旨の報告があった。

本実践のねらいは、学生に①15分散歩をする気になってもらうことと、②事実と感想を混在させない観察力を身につけ、観察内容を他者に伝えること、であった。考察をまとめると、パソコンの画面を見続け課題に追われる学生に、運動不足解消のきっかけとなる縛りのない言葉がけを筆者が示すことで、全員が自発的に散歩へ出かけることができた。そして感染を気にせずに、観察眼を養いながら記録することもできた。しかし、観察内容を要約し、それを他者へ発表することまで至らなかったため、観察眼を文章力に変換するねらいは達成できたとは言えない。そもそもメモを要約して他者に伝えることは、筆者の思いつきによる“欲張った着地

点”である。したがって、ここに学生をいざなうことは次の課題としたい。そして最も重要な事は、早急にシラバスとの関係性を明確にすることである。

6. おわりに

かつて例を見ない授業形態を、即座に取り入れる必要があった2020年度。もし本実践を受ける前の学生から「美術教育には有事の際の対応策はあるのか」と問われれば、筆者は「無限に存在する」と答えただろう。そして実践を終えた学生から「散歩をしてメモをすることが美術的活動なのか」と問われれば、「主体的に観察する力を身につけることは美術活動にとどまらず、表現活動では避けて通ることはできず、また保育士という職業に限ってても、それは共通している」と答えるだろう。

今年度前期、この状況下では対面でしか成立しない芸術系授業は実施できないだろうという噂が聞こえてきた。しかし筆者は、学生の表現力を信じて、主体的な表現意欲を引き出すきっかけを探していくうちに、やってみなければわからないという開き直りと共に、何とかなるとい根拠のない自信を得た。学習到達目標を見失うことなく、ルールに従い、学生を制作したくなる気にさせると、表現力は自然と表に顔を出した。表現ができれば達成感と共に喜びを得て、次なる意欲を引き起こす。この学びのスパイラル³は、状況に応じていくらでも変容できることがわかった。そして対面授業ができなくとも、指導者が主体的表現意欲を引き出すきっかけを学生へ提示し続けることができれば、一度回り出した学びのスパイラルはしばらく停止することはないようだ。

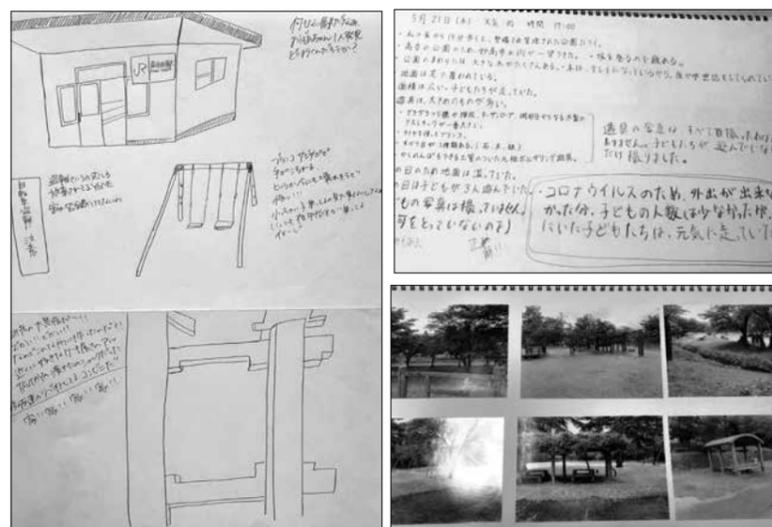
現在、本実践終了後も定期的に散歩と観察を続けているという学生は徐々に増えていると聞く。

【註】

1. 新潟青陵短期大学幼児教育学科1年生130名
2. 佐伯胖『幼児へのいざないー円熟した保育者になるためにー』東京大学出版会 2001年 pp.179-182
3. 福岡龍太「学びのスパイラル」がもたらす教育の未来像ーこどもの柔軟な意思表現を引き出す取り組み実践を通してー 東京藝術大学修士論文 2014年



参考資料1 学生のメモ



参考資料2 表現方法を考慮したメモ